形成外科 臨床研修カリキュラム

研修責任者　　杠　俊介

1.　研修科の特色

形成外科は臨床医学の一端を担うものであり、先天性あるいは後天性に生じた変形や機能障害に対して外科的手技を駆使することにより、形態および機能を回復させ患者の Quality of Life の向上に貢献する外科系専門分野です。多くの外科は、“病巣部を切り取ること”が主たる目的としていますが、形成外科は“欠損した部位を再建する”ことを目指す creative surgery（創造する外科）です。

私共の教室は、昭和 53 年に耳鼻咽喉科学教室から病院内診療科として独立し、平成 2 年に大学の教室となり、歴史を重ねてまいりました。開設当時は、耳鼻咽喉科関連の頭頸部の手術治療が中心でしたが、その後、教室員の国内外への研修留学や独自の研鑽により、頭蓋、胸郭、手指、全身熱傷など形成外科のどのような分野でも対応できるような診療チームが出来上がりました。

現在は、熱傷・顔面四肢外傷などの救急分野から、小児の先天性疾患、腫瘍の切除再建、褥瘡・足潰瘍などの慢性疾患まで、形成外科の全領域に対応しています。その治療の多くは、他科との連携により行われており、外傷・熱傷は救命救急科、先天性疾患は小児科、口唇口蓋裂は耳鼻咽喉科、歯科矯正科、口腔外科、血管腫血管奇形は放射線科、再建は耳鼻咽喉科、脳外科、口腔外科、外科、婦人科、皮膚科など多岐にわたっています。また、循環器内科・血管外科・内分泌内科との重症下肢虚血治療、内科からの多様な組織の生検や気管切開の依頼、外科系からの閉創や術後創離開の治療依頼など、形成外科として多くの科の診療に溶け込み、存在を認めてもらえていると実感しています。

2.　研修目標

一般般目標 GIO

形成外科の基本的知識・手技を習得する

行動目標 SBO

1.　良好な医師患者関係をつくる
2.　良好なチーム医療を行う
3.　患者を診察し、適切な診療記録の記載ができる
4.　XR、 CT から顔面骨骨折の診断ができる
5.　創を観察し、適切な処置ができる
6.　適切な外用剤・創傷被覆材の選択ができる
7.　適切な局所麻酔ができる
8.　適切な真皮縫合、表皮縫合ができる
9.　術後創の閉鎖ができる
10.　感染創を診断し、適切な処置ができる

3.　研修方略

（研修期間が 4 週の場合）

1.　（SB01，2，3，5，6，10）病棟回診で入院患者の創傷処置を行う
2.　（SB01，2，3，4，5，6，10）外来診療に参加し、形成外科的な診断と治療を学ぶ
3.　（SB01，2）手術助手として手術に参加する
4.　（SB08）縫合シミュレーションにて縫合法を練習する
5.　（SB01，2，7，8）術後創の閉創の一部を行う

（Advanced（4 週以上）の研修の場合追加される項目）

6.　（SB07）局所麻酔を行う
7.　（SB01，2，7，8）採皮、植皮などの簡単な手術を行う
8.　（SB01，2，7，8，9）術後創の閉創を行う

4.　週間予定

	月	火	水	木	金	その他
午前	7：30～ カンファレンス・総回診	回診・外来	7：30～ カンファレンス・手術	回診・外来	7：30～ カンファレンス・手術	
午後	手術	外来	手術	外来	手術	
17：15 以降	再建手術					

※(金)17:30-18:00 研修医クルズス

5.　評価

研修期間の評価

４週以上の研修が不足なく行われていること。また、研修医は研修において経験した項目について随時PG-EPOCに記録する必要がある。

研修中の評価

（形成的評価）

週１回、上級医、指導医と研修の進行状況を評価し、研修内容を調整する。

研修後の評価

研修医は、当該研修科の研修期間の最終日までに、PG-EPOCの該当項目について自己評価を行う。

自己評価が終了次第、当該科の指導医、指導者（看護師長）にその旨を報告し、評価を依頼する。

研修中に経験した疾病、症状について病歴要約を作成・提出し、速やかに指導医へ評価を依頼すること。

（形成的評価）

当該研修科の指導医、指導者は、研修医評価票に記載された評価を用い、フィードバックを行う。

・研修医評価票Ⅰに基づく評価

指導医・指導者（看護師長）が、A-1 からA-4 の項目について評価し、印象に残るエピソードを記入する。

・研修医評価票Ⅱ（1-9）に基づく評価

指導医・指導者（看護師長）が、1～9 の項目について評価する。

・研修医評価表Ⅲに基づく評価

指導医、指導者（看護師長）が、C-1 からC-4 の項目について評価し、印象に残るエピソードを記入する。

臨床研修評価表Ⅰ～Ⅲを基に、責任指導医は臨床研修の目標の達成度判定票を作成し、当該研修期間における目標の達成状況を判定する。

（再履修を要する場合）

・当該研修科を修了とするに不十分であると判断された場合、卒後臨床研修センター長と協議し、再履修とする。

（研修科の総括的評価）

研修中の態度、研修目標の到達度から判断する。

※当科の臨床研修指導医は卒後臨床研修センターWebサイトにて確認してください。

信州大学医学部　形成再建外科学教室

■住所：〒390-8621　長野県松本市旭3-1-1　■電話：0263-37-2833(直通)　■FAX：0263-37-1920

■E-mail：keisei@shinshu-u.ac.jp

■U R L：http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/chair/i-keisei/